

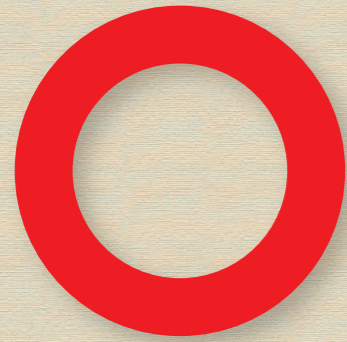
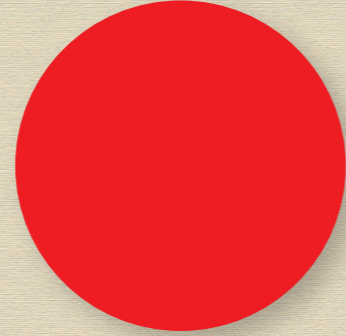
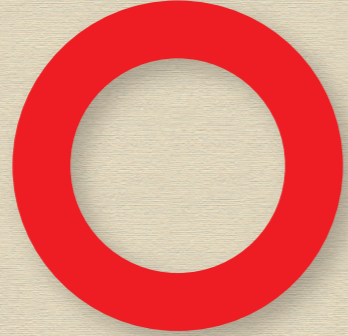
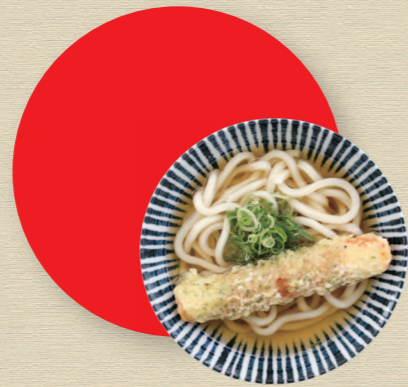
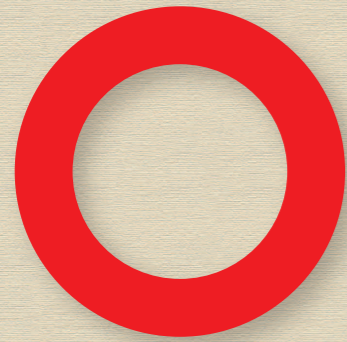
新・さぬき野

かがやくけん、かがわけん。

香川県

2018 No.61

夏



特集 香川は 日本一



「次世代にリレーする事業をつくる」 無双地図 創業メンバー

香川に住んで

はじめたこと



古民家を改装し、事務所兼、カフェ兼、一棟貸しのゲストハウスに。紫雲山ハイキング、いりこ漁とうどん打ち、発酵食品の工場見学などの観光ツアーも提案。

香川県に来る前、森さくらさんはケニアの旅行会社で働いていた。千葉県の新興住宅地で育ったが、街の風景の味気なさや満員電車での通勤になじみず、24歳でケニアに向かう。そこでご主人と出会い、結婚して出産。ケニアの生活が10年を迎える頃、子育ては日本でしようかとご主人



カレーランチ担当の永井さん夫妻は、地元の食材を使い、地域で昔からオーガニック野菜の栽培を始めて1年目。「将来は、自分たちの作った野菜でカレーを作るのもいいですね」と、夢は広がる。



地元の食材を使い、地域で昔から食べられて来た料理を現代的にアレンジして提供する「地域食アテンド」事業。地域の女性らが調理で活躍。



無双地図は、地元愛の強い2人の三豊出身者と、2人の移住者で、昨年4月にスタートした株式会社。

「1年目に、久しぶりに体感した冬の寒さと、仕事も友人もない孤独に絶えられず、実家に帰った事もあるんですが、すぐに、おむすび山と静かな海があり、おばあちゃんたちの井戸端会議の声が聞こえる三豊が恋しくなりました。」
自分の居場所づくりの必要性を感じ、それからはアンテナに引掛かる場所を次々と訪ねては友だちをつくり、その友だちを介してさらに興味深い人や場所との出会いを重ねた。「三豊は面白い」という気持ちだけでなく高まり、三豊観光大使、地元ラジオ局の地域レポーター、任意団体「みとよ1000年観光会議」の副会長と、気が



森さくらさん
北海道生まれ千葉県育ち。短大卒業後、東京の旅行会社に就職、1997年に日本人がオーナーのケニアの旅行会社に転職。2007年に帰国し、三豊市での生活が始まる。次男を出産して、現在は2児の母。

現在働く「無双地図」は、ゲストハウス、観光ガイド、カフェ、地域の食の紹介と提供、の4事業を行う。雇用創出も狙いで、これら事業による地域活性化を目指している。「桜の美しい紫雲山、ウユニ塩湖のような父母ヶ浜。地域の人が昔から手間暇かけて維持してきた観光資源を生かし、次世代にバトンを渡せる事業に育てたいんです。」
三豊に住んで11年、仕事に家事に子育てに奮闘する森さん。毎日、とんでもなく慌ただしいと話す笑顔は、充実感に輝いている。

* Photo: 無双地図

香川県情報誌
新・さぬき野 2018 No.61 夏

香川県に関する問い合わせ

- 香川県広聴広報課 〒760-8570 香川県高松市番町4-1-10 TEL087-832-3019
- 香川県のホームページ <http://www.pref.kagawa.lg.jp/>
- 新・さぬき野のページ <http://www.pref.kagawa.lg.jp/kocho/sanukino/> (電子ブック・スマートフォン版有り)
- 香川県東京事務所 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3都道府県会館9階 TEL03-5212-9100
- 香川県大阪事務所 〒542-0083 大阪市中央区東心斎橋1-18-24クロスシティ心斎橋4階 TEL06-6281-1661



特集 香川は日本一

海は音楽だった。

私が生まれた牟礼の実家は、海まで歩いてほんの15分ほど。私は瀬戸内海と共に育ちました。父や妹と泳ぎに行ったり、祖父と潮干狩りをしたり。遊んだ思い出は数えきれません。そして、ただ静かに海を眺めることもバイオリンと同じくらい好きでした。私がバイオリンに夢中だったのは、弾いていると自由に空想が広がるから。不思議なことに、海を眺めていても同じようにイメージが湧き上がるんです。

大人になって世界のあちらこちらで演奏させていただくようになり、きれいな海をたくさん見ました。でもふるさとの海に勝る風景はありません。里山から流れ至る川、海と島影。キラキラと輝く水面みなもに小さな船が行き交う姿は神々しさと素朴さが交差しています。あの美しさは音楽です。

私は知り合いにはいつも、ふるさとの景色を自慢しています。世界のどこにもない素晴らしい場所。ここで生まれ育ったことは、私の誇りです。



ヴァイオリニスト
川井郁子



特集 香川は日本一



日本一の オリーブ

オリーブの収穫量日本一／シェア9割以上

オリーブ栽培発祥の地として

明治41年に複数の県でオリーブの試験栽培を行ったところ、小豆島だけで根付き、ここから国産オリーブの栽培が始まった。現在は、高松市や坂出市など県内各地に生産地が広がる香川県産オリーブは、1粒ずつ手で摘み、熟れ具合や傷の有無を調べ、よりすぐりの実からオイルを搾る。独自の厳しい表示制度を設けての品質管理も行っており、国際的な品評会で受賞するまでに成長した。オリーブハマチや、オリーブ牛など、オリーブから派生したブランド食品も開発されている。



日本一の ため池

日本最大規模のため池・満濃池、ため池の密度日本一

豊作への願いの数だけ、ため池がある

晴れの日が多い讃岐平野で無数に輝くため池は、密度でいえば日本一を数える。中でも、世界かんがい施設遺産に認定された日本最大規模の農業用ため池である「満濃池」は、弘法大師・空海が修築したことで知られている。温暖な気候の一方で水不足は深刻で、ため池の水によって救われてきた。貴重な水で育てる作物には、ひとしお愛情がこもる。食味ランキングで最高の特Aを四国で初めて獲得した県産米「おいでまい」開発の背景にも、作物への強い思いがある。

日本一の 丸亀城

石垣の高さ日本一、日本一小さい天守

高くそびえる石垣の上に 小さな天守

美しい石垣に感嘆の声が上がる丸亀城。小山を利用した城の石垣は、幾重にも重なり、総高約60m、日本一の高さを誇る。大手門から入るとすぐに大きな櫓形※があり、二の丸には、日本一深いという伝説の井戸もある。そして、頂には現存する十二城天守の中では最も小さい天守閣が建つ。そのため、下から見上げれば、石垣は実物よりも高くそびえて見える。

※敵の進入を妨げる施設



日本一の うどん

うどん店の数日本一／1万人あたり5.9軒
うどん・そば消費額日本一／年間一世帯1万2千円

江戸時代からうどん県

江戸時代に描かれた屏風「金毘羅祭礼図」に3軒のうどん屋が描かれるなど、香川では昔からうどんが食べられてきた。二毛作の作物として育った小麦、小豆島などのしょうゆ作り、一大産地であるいりこ(煮干し)、讃岐三白の一つに数えられた塩など、必要とされる食材がそろっていたのだ。今や讃岐うどんは、「日本一おいしいうどん」と自負する県民のプライドとなっている。



1702年に描かれたという金毘羅祭礼図屏風。

うどん屋で生地をこねる様子も描かれている。

金刀比羅宮所蔵

日本一の 盆栽

松盆栽の生産量日本一／シェア約8割

海外でも人気のBONSAI

白砂青松の海岸で知られる瀬戸内海。その自然の姿を小さな鉢の中で模そうと、江戸時代に始まったのが高松市の松盆栽だ。全国シェア約80%を占めており、職人が長い年月をかけて創造する樹形は、高い芸術性が魅力となっている。近年はヨーロッパやアジアにも愛好家が増えて、「BONSAI」が世界共通語になってきた。また樹高20cmほどの「小品盆栽」は、高松・松平家の12代頼寿が創始者とされる。



日本で一番小さな県・香川は、県土の狭さを感じさせないほど多くの「日本一」がある。どれもが輝くような実績だ。その背景に目を向けると、そこには風土や歴史の関わりがあり、人々の努力がある。積み重ねられた思いの結果として「日本で一番」となったのだ。日本一を知ることは、香川を知ることになる。

香川が誇る日本一

日本一のアーケード

アーケードの総延長2.7kmは日本最長

どこまでも続くアーケード街

日本三大水城の一つ「高松城」。その城下に広がった商人の町が、日本一長いアーケード街につながる。町を広げた時、丸亀城下から商人を移住させてきたという丸亀町商店街をはじめとして現在では八つの商店街があり、そのアーケードは、主要道で分断されているものの総延長2.7kmで日本最長。さらに、丸亀町寺番街にあるクリスタルドームの最高点32mは、アーケードの構造物として日本一の高さを誇る。

まだある

香川の日本一

うちわの生産量日本一

金時ニンジンの生産量日本一

マーガレットの生産量日本一

手袋の生産量日本一

日本最古の歌舞伎劇場「金丸座」

世界一狭い海峡「土淵海峡」

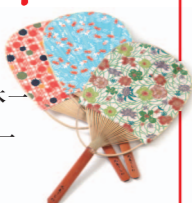
日本一営業時間が短い駅「JR津島ノ宮駅」

道路・鉄道併用橋としての長さ日本一

瀬戸大橋



日本一面積が小さい「香川県」





少数意見ピックアップ

アートと建築

瀬戸内国際芸術祭の作品やイサム・ノグチの彫刻などがパブリックアートとして街と共存。丹下健三、安藤忠雄、谷口吉生などの建築物も見応えがある。



ちちぶがはま 父母ヶ浜

風がやむ夕刻、ウユニ塩湖のような鏡面が現れる美しい浜。



屋島

屋根のような形(メサ台地)の山。日本書紀に記載された屋嶋城(やしまのき)が復元され、源平の古戦場跡も残る。



「これぞ日本一と自慢したい香川」ランキング

順位	項目	支持率
1位	讃岐うどん	68.9%
2位	金刀比羅宮	37.6%
3位	島々の時間	35.2%
4位	瀬戸内国際芸術祭	32.4%
5位	栗林公園	32.1%
6位	骨付鳥	28.1%
7位	オリーブ・オリーブ製品	26.1%
8位	海の幸	20.3%
9位	盆栽	17.7%
10位	アート・建築	8.8%

<香川県在住の679名(男性332名・女性347名)にアンケート調査>

美しい「栗林公園」

高松藩主の大名庭園であった栗林公園は、日本を代表する庭園として世界各国から観光客が訪れている。南湖では和船に乗っての船遊びが体験でき、掬月亭では美しい庭を見ながらお茶とお菓子で一服できる。



豪快にかぶりつく「骨付鳥」

骨が付いたままの鳥のモモ肉をスパイシーな味付けで丸焼きにした「骨付鳥」は、丸亀市を中心とする香川のソウルフード。手づかみで豪快にかぶりつく食べ方も独特で、忘れがたい旅の思い出になる。

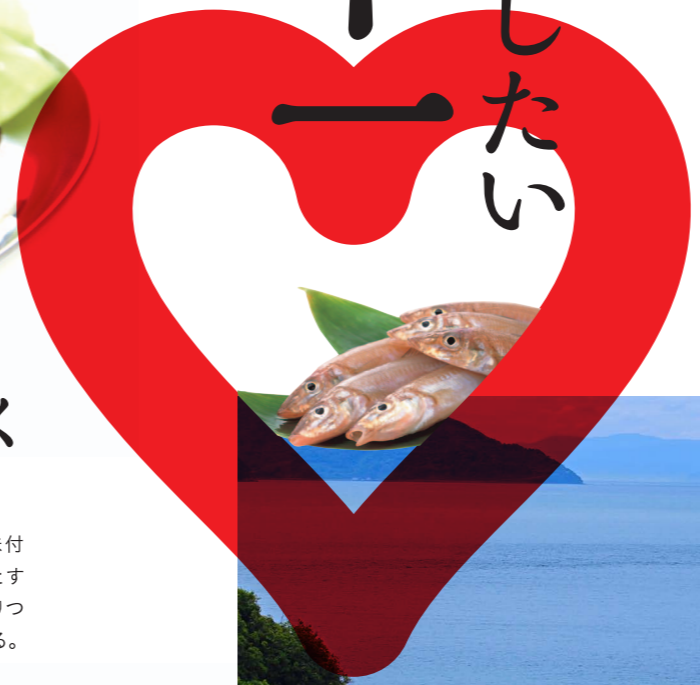


おいしい「海の幸」

起伏に富む海岸線と栄養豊富な海水が多く魚介類を育む瀬戸内海は、四季を通じて豊かな漁場である。水揚げされた海産物は築地などにも送られているが、香川では取れたての新鮮なものを味わえる。

香川県民が自慢したい心の日本一

香川県民が日本一だと自慢したいことはなにか、アンケート調査を行った。数値で表されるものとは違う、いわば心の日本一である。香川を訪れるなら、ぜひ足を運んで、体験してほしい。
※うどん、オリーブなど前ページで紹介した項目は割愛しています。



長い石段を登る「金刀比羅宮」

こんびらさんの愛称で親しまれ、江戸時代から憧れの旅先といわれている金刀比羅宮。本宮まで785段、奥社までなら1368段の長い石段も名物である。土産物店などを物色しながらマイペースで登りきれば、讃岐平野が広がる見事な景色が出迎えてくれる。



のどかな「島々の時間」

香川県の沖にはさまざまな島があり、それぞれに特色がある。島から島へ1時間以内に移動することも魅力で、景勝地、アート、料理、あるいはのんびり過ごす時間を目的に、多くの人々が訪れている。小豆島では、島を1周するサイクリングも人気。



3年に1度開催される「瀬戸内国際芸術祭」

瀬戸内海に浮かぶ12の島々と、二つの港を舞台に3年に1度開催される「瀬戸内国際芸術祭」。作品が島の暮らしを彩り、また島の持つ魅力が作品の力になっている。島を渡り歩き、アートを巡る旅は、特別な時間になる。次回は2019年4月26日から春夏秋冬合わせて107日間開催。





心の日本一がまたひとつ

うどん文化を支えた 水車が復活

雨の少ない香川県には多くのため池がある。昔はそこから流れる川に水車が回り、田に水を引き、動力としても活用された。最盛期は明治初期から中期とされ、県内に384基もの水車があったという記録が残っている。その動力で小麦をうどん用の粉に挽いていたものもあり、讃岐うどん文化を担った生産機器でもあったのだ。

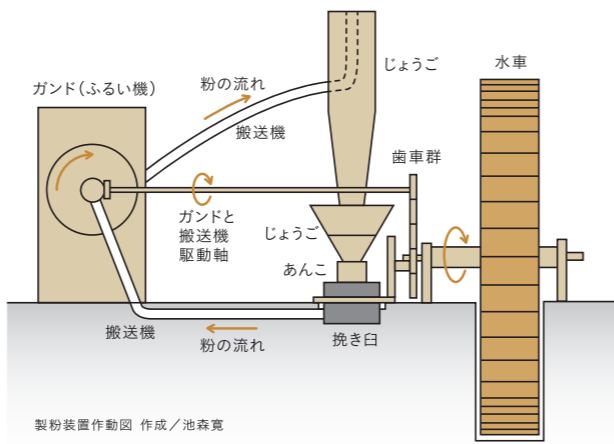
今年3月、四国唯一の現存する製粉精米水車場で、全国でも最古級の「高原水車」が復活された。この水車も、かつては懸命にうどんの粉を挽いていた。

水車が動力の 木製オートメーション

高原水車は、水車場と呼ばれる小屋の中で、水しぶきを上げている。小屋の中央で直径15尺(約4.55m)の水車が回ると、歯車を通して動きが伝わり、挽き臼が回って粉を挽く。挽かれた粉はベルトコンベヤーのような搬送機を通って移動し、回転式のふるいにかけてられる。細かく挽かれた粉は受け棚に落ちるが、挽きが不十分な麦はふるいに残り、さらに搬送機で運ばれて再び挽き臼にかけられる。水車の力でこの周回が自動的に行われ、数回繰り返すと製粉が完了する。

水車も製粉装置もほぼ木でできており、さながら「木製オートメーション」。他にも製麵機など、いくつかの機械が滑車とベルトで水車とつながっていて、その道筋を指でたどりたくなる。残念ながら、修復され動いているのは水車のみ。機械はまだ眠っており、引き続き歯車などから修復が進行中だ。

高原水車は江戸時代に、高松藩の御用水車として始まった。明治維新で民間に渡り、1902年に現在の持ち主である高原家の先祖が買い受けた。以来、水車で製粉・精麦・精米業を行い、うどんの製麵にも進出。1967年に坂出市の水車大工の手で新調された水車は、昭和の末ごろまで現役で動いていた。しかし、1990年に一部が壊れ、そのまま長い眠りについたのだ。



製粉装置作動図 作成/池森寛



「ガンド」と呼ばれるふるい機は、筒状に並んだ棒の周囲に網布を貼って使う。筒の内側まで運ばれた粉を回転しながらふるい落とす。



讃岐平野を流れる川のそばにあり、わずかな土地の傾斜を利用して水路から引いた水を水車に落とし、石垣の水路から川に戻す。



解体した古い水車も大切に保存。水輪は八つのユニットに分かれ、少しずつ重なり合うように丸く形成されていた。



水輪の下段に勢よく落ちるように導かれた水を受け、水車が回る。受け板の角度や水車と底樋の間隔の狭さ(1.5cm)、さらに水車の芯の銅木を固く締め、強度を高めて回転を確実に歯車に伝える「根がらみ」という部材などに、構造的長がある。これらは少量の水でも大きい動力が得られる。雨の少ない香川ならではの工夫。交流のあった九州の水車大工と研究者が、香川の職人が造った水車の再現修復を担い、香川の若手大工に伝統技術の継承も行った。



友の会メンバーの、高原家姉妹と水車を愛するご近所の方々。水車復活を望んでいた長男の急逝後、その遺志を継いで姉妹が実現。

情熱が動かし 地域を誇りに

水車復活のシナリオは、2011年、瀬戸内海歴史民俗資料館が調査に入った事をきっかけに描かれ始める。当時は荒れていたものの、敷地、利水、機械装置、歴史の裏付けとなる文書資料までが良好な状態で残り、文化財として貴重である事が判明。所有者の高原家と、地元の識者や有志の間で復活の機運が高まった。中にはもちろん、讃岐うどんに携わる人たちもいた。

2014年には「高原水車友の会」を設立。水車場の清掃や修理、資料の整理、埋まっていた水路の掘り返しなど、地道で膨大な作業を、友の会のメンバーが何年にも渡り手弁当で行った。そのかいあって、2016年には国の登録有形民俗文化

化財に登録されている。

「保存の方向性を考えた時、古い水車を解体して作り直すとは決めた理由の一つは、近所に住む友の会のある方の一言。『昔のように回る水車を見たい』という言葉に、みんなの心の中の水車も回り始めました」と、高原家の一員で「高原水車友の会」会長の平田恵美さん。

念願の水車が動いた今、次の目標は、歯車と挽き臼の修復。隣接する畑で麦を育て、水車で挽いた粉を水車でうどんに製麺して、お世話になった方や来訪者に振る舞うのが、友の会の夢だ。さらに、文化活動など、水車が地域の持ち味となり誇りとなるような活用法を、若い世代に考えてもらいたいのだ、と言う。

香川の人々の情熱で回る高原水車は、毎月最終土曜日に一般公開中だ。



高原水車 (讃岐六条の水車)

高松市六条町672
毎月最終土曜日(12月は除く) 公開/10時~15時

「讃岐六条の水車及び関連用具」(水車1件、関連用具348点)として、2016年に国の登録有形民俗文化財となる。水車と関連用具が国の登録有形民俗文化財になるのは全国初。「丸亀うぢわの製作用具及び製品」「東かがわの手袋製作用具及び製品」に続き、県内では3例目。



オクテトラ(中央公園)

香川県立ミュージアム

高松市玉藻町5-5 TEL087-822-0002
月曜、年末年始休館／9時～17時
作品:アーケイック(玄武岩・1981年)ほか

高松市美術館

高松市紺屋町10-4 TEL087-823-1711
月曜、年末年始休館／9時30分～17時
作品:山つくり(亜鉛メッキされた鉄板・1982年)ほか

高松空港インフォメーションセンター

高松市香南町岡1312-7
TEL087-814-3355
作品:タイム・アンド・スペース(庵治石・1988-89年)
※作品は屋外にございます。交通事故などの危険があるため
歩道から鑑賞してください。

イサム・ノグチ庭園美術館

高松市牟礼町牟礼3519 TEL087-870-1500
往復はがきにて申し込み制
開館日は火・木・土／10時・13時・15時
1969年にイサム・ノグチが構えた
アトリエや住居と共に150点余の
彫刻作品と彫刻庭園を公開。

【遊具彫刻】

- ① 中央公園 高松市番町1-11
- ② 一の宮公園 観音寺市豊浜町姫浜55-2
- ③ 五色台少年自然センター 高松市生島町423 (2019年3月まで見学不可)
- ④ さぬきこどもの国 高松市香南町由佐3209
- ⑤ 屋島レクザムフィールド 高松市屋島中町374-1
- ⑥ 山椒山公園 高松市牟礼町牟礼2778-28
- ⑦ 津田の松原SA(下り) さぬき市津田町鶴羽939-1
- ⑧ 小豆島オリブ園 小豆郡小豆島町西村甲2171

設置は2018年5月現在
資料提供:香川県立ミュージアム



イサム・ノグチとかがわ 時空を超えた 贈り物

ISAMU



Photo: Michio Noguchi

彫刻のみならず舞台美術や家具、遊具など、幅広い活動を展開し、さらには空間芸術としてモニュメントや公園の環境設計などの仕事に着手し、まさに20世紀を代表する総合芸術家であるイサム・ノグチ。世界から注目を浴びるその芸術家は、晩年、香川県牟礼の地に住居兼アトリエを構えた。イサム・ノグチにとって、香川県とはどういう地であったのか。没後30周年の今年、その足跡を香川の地にたどってみたい。

「日本は世界に教える重要ななにかを持っている」[※]と、イサム・ノグチは語った。日本は父の国であり、母と共に幼少期を過ごした特別な場所である。そのノグチが、幾度かの来日を経て、香川県を訪れたのは50代になってからであった。

当時、県ではデザイン知事との異名を持つ金子正則が手腕を発揮していた。猪熊弦二郎や県庁舎を設計した丹下健三と交流があり、そうした人脈からノグチとの交流が始まる。ノグチが石の作品を制作するための場所を探していると聞いた金子は、芸術家コロニーの構想を抱いていた小豆島を推したが、ノグチから良い答えは返ってこなかった。

1964年、金子の案内で訪れた牟礼で、ノグチは「石のアトリエ」主宰の和泉正敏と出会う。牟礼は、銘石「庵治石」の産地として知られる。この花こう岩は、水晶に近い硬度を持ち、二百年を経ても彫られた字が崩れたり、変色したりしないといわれている。それだけ硬い石を扱うには、卓越した技が必要だ。ノグチは、その石工の技にほれ込んだのだ。さらに、ノグチが制作するのは抽象作品である。完成するには斬新な手法、実験的な試みに応える技、そして、体力と情熱も必要であろう。それに応えたのが和泉であった。和泉と共に加ひたすら石と対峙でき、仕事に打ち込めるという理由で牟礼の地を選んだ。

また、ノグチを支えた人物に当時、香川県建築課の職員であった山本忠司がいる。建築を愛し大いに理解した金子知事の下で、丹下健三をはじめとした名だたる建築家の仕事を間近で学び、自らも瀬戸内海歴史民俗資料館などの魅力的な建築を残した人物である。この山本は丸亀藩旧入江家を住宅の移築を手助けし、ノグチは牟礼での住居「イサム家」を完成させた。1969年に構えたアトリエと住居は、その後の作品にとって重要な拠点となり、次々と石の作品が生み出される。

1986年、ノグチは庭園彫刻を「種の空間の人間化、彫刻の人間化」と語り、「いたる所に行きましたが、わたしはいつもどこかくつろげる場所、役に立てたと感じられる所を探して航海していました」[※]と話した。牟礼のアトリエは、その最後の場所となり、2年後にニューヨークで帰らぬ人となる。この地の重大さを知る丹下健三、谷口吉生、三宅一生などの協力も得て、イサム・ノグチ日本財団が設立され、「イサム・ノグチ庭園美術館」開館となる。ノグチは、この地を「未来への贈り物」と称しているが、今なおノグチのまなざしを感じるこの場所でも多くの人々がノグチからのメッセージを受け取っている。

庭園美術館の他にも、香川県立ミュージアムと高松市美術館で作品を常設展示している。どちらも、ノグチが愛した牟礼のアトリエのように静けさが作品を包み、心ゆくまで鑑賞できる。香川県では、子供たちも気軽に作品と戯れている。ノグチがデザインした遊具彫刻があちこちに置かれているのだ。また、高松空港ではノグチの遺志を継いで和泉が完成させた「タイム&スペース」の作品が時を超えて人々を迎える。

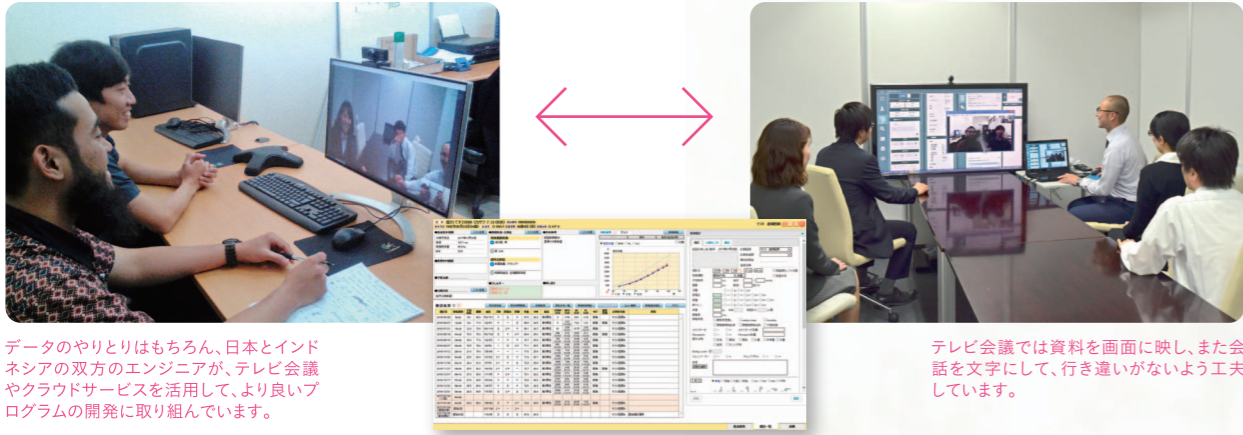
今年はいサム・ノグチ没後30周年。年を経ても色あせるどころか、香川県においてますます存在感を増すイサム・ノグチ。その面影をたどって、香川の地を巡ってほしい。(本文中敬称略)

※イサム・ノグチ「1986年度第2回京都賞精神科学・表現芸術部門受賞記念講演」より、求龍堂出版「イサム・ノグチ庭園美術館」から抜粋。



にも努めてきた。今回は、そうした支援により、現地法人を立ち上げたミトラ（本社高松市林町・社長藤井篤人）の取り組みを紹介する。

ミトラの主要な事業内容は、「周産期電子カルテ」や「周産期見守りネットワークシステム」、「電子問診票システム」などの開発販売。また、IOTの高齢者見守りシステムの開発など、いわばITにより社会問題の解決を手助けする企業である。なかでも周産期電子カルテ「ハローベビープログラム」は、日本全国の周産期医療を扱う基幹病院で導入されている。この開発の背景にあるのは24時間の対応が必要な産科の医師不足。日本の未来を考えれば深刻な問題である。そこで、医師の助けとなるプログラムの開発に取りかかった。そうして生まれた「ハローベビープログラム」は、中核病院と地域の病院をつなぐ重要な役目を担う。10年ほど前に妊婦のたらい回しが社会的な問題となったが、この電子カルテにより、確実なデータを共有することで、円滑な連携や引き継ぎが可能となった。また、岩手県においては、大震災の後、このプログラムにより、多くのデータを守ることができたのだ。この日本での実績をもとに、イン



データのやりとりはもちろん、日本とインドネシアの双方のエンジニアが、テレビ会議やクラウドサービスを活用して、より良いプログラムの開発に取り組んでいます。

テレビ会議では資料を画面に映し、また会話を文字にして、行き違いがないよう工夫しています。

香川県海外ビジネスチャンス活用支援事業

インドネシアの 母子を救え！

ミトラの周産期電子カルテ 「ハローベビープログラム」



人口減少による市場規模の縮小や人手不足の深刻化など、地方経済はさまざまな課題を抱えている。そこで、香川県は全国に先駆け5年前に「香川県産業成長戦略」を策定した。この戦略の柱の一つが海外展開を希望する企業へ、さまざまな支援を行う「企業の海外展開の促進」である。例えば、(独法)日本貿易振興機構(ジェトロ)との連携により、優秀な技やシステム、製品を有する県内企業が積極的に海外展開に踏み出せるよう、現地情報の提供や商談会などを開催。また海外展開を担う人材の育成

ている。

また、保険制度も含め、これから整備が進むインドネシアだからこそ、さまざまな試みを行い、数々のデータを取得できるというメリットもある。その実績を今度は日本の医療現場で生かすことができるのではと期待している。

今後の目標は、何より妊産婦の死亡率を下げ、その実績をインドネシア全土に広げ、ブランドを確立することである。「ミトラ」とは、現地の言葉では「仲良し」という意味がある。インドネシア、ひいては東南アジアの国々と寄り添い、多くの母子を救うことを願っている。

ドネシア進出となる。

インドネシアの年間出産数は2015年に約500万人。しかし、妊産婦の死亡率は10万人あたり305人^{※1}。ちなみに日本においては10万人あたり3.8人^{※2}であった。つまり、出産において、救えるはずの命が失われたことになる。

インドネシアでは、カルテが紙ベースである上にその管理を妊婦自身が行う。病院も取り扱うが、管理状況が不完全であるため、原因がよく分からないという理由で、帝王切開が頻繁に行われているという。

そこでミトラでは、2017年1月、西ジャワ州の州都・バンドンに現地法人「PT. MITLA INDONESIA RATTORY INDONESIA」を立ち上げ、周産期管理システムの普及に取り組んでいる。この立ち上げにおいて、「香川県海外ビジネスチャンス活用支援事業」制度を使い、税務相談などを含めスムーズな展開ができたという。

システムの導入により、電子カルテが、検査漏れのチェックシートにもなり、手順書や指導書の役目も果たし



インドネシアのバンドンにある「PT. MITLA INDONESIA RATTORY INDONESIA」のスタッフ。

※1 Profil Kesehatan Indonesia 2015より

※2 厚生労働省 厚生統計要覧(平成28年度)より

※3 会社名「MITLA」(ミトラ)は、メディカルITラボラトリー(Medical ITLaboratory)の頭文字。

香川愛媛 せとうち旬彩館

KAGAWA EHIME SETOUCHI SHUN SAI KAN

東京・新橋アンテナショップ

特産品、郷土料理、観光交流コーナーで香川の旬をぜひどうぞ



暑い夏には、さっぱりとおすすめは「やまびこ」**「やまびこ」** 注目はこれ!
「やまびこ」 注目はこれ!
「やまびこ」 注目はこれ!



暑い夏、さっぱり食べたいところてん。香川県内唯一のところてん専門店、創業230余年の清水屋(坂出市)では、国産テングサを100%使用。代々受け継がれてきた昔ながらの製法で真心と愛情を込めてところてんを作っています。

少し太めのところてんはツルツルとのど越しがよく、しっかりとした独特のコシがあり、ほのかな磯の香りもして、これぞ本物の味。酢醤油とからしが付いているので、冷やしてすぐに食べられます。

2F 郷土・せとうち料理 「かおりひめ」では、夏に向けて、お昼のランチメニューに、「オリーブ豚のころろぶっかけうどん」が6月から8月までの期間限定で登場します。



東京都港区新橋2-19-10新橋マリビル1,2階
旬彩館 <http://www.setouchi-shunsaikan.com/>
観光交流コーナー TEL03-3574-2028

県内周遊の必須アイテム

「うどん県おもてなしパスポート」

香川県内をお得に周遊できる「うどん県おもてなしパスポート」を発行しました。対象施設にパスポートを提示すると、割引などを利用できるほか、スタンプラリーや宿泊キャンペーンを利用してお得に周遊できます。

また、早朝・深夜に営業しているうどん店の情報やレンタサイクル情報など、お役立ち情報も掲載しています。

パスポートを有効活用し、お得にうどん県を堪能してください。

【問い合わせ】香川県観光振興課 TEL087-832-3360

[うどん県旅ネット パスポート](https://www.my-kagawa.jp/passport/)

<https://www.my-kagawa.jp/passport/feature/passport/top>



〔大阪で味わえる香川の恵み〕

香川の食材に大阪で出合った。まずは大阪で。次はぜひ本場香川へ



かむほどにうま味広がる「オリーブ地鶏 塩焼き」

大阪の中心街、北新地に4月にオープンした「馳走とお酒 讃岐うどん 山地」。

店主の山地隆介さんは「父親が香川県三木町出身だったので、子どもの頃から讃岐うどんや香川の郷土料理になじみがあり、自分の店を出すなら香川の食材を使った料理を提供したいと考えていました」と香川県への思いを語ってくれました。

店主のおすすめは、「一枚入魂!すき焼き」と「海老みそ釜たま」。すき焼きは、脂がしつこくないオリーブ牛を使用。食べ終わった後の割り下はオリーブ牛のうま味が溶け出しているため、シメに卵とじご飯としてご提供。また、海老みそ釜たまは、おでんのみそだれとしても提供している海老みそをうどんに混ぜてお出ししています。そのほか、3月から販売を開始したオリーブ地鶏や、店主の遊び心あふれる料理「讃岐うどんのお造り」なども堪能できます。

営業時間は18時からで、お酒も提供しています。利き酒師の資格を持つ女将、木島由里加さんよりすぐりのお酒をいただきながら、店主の香川愛あふれるお料理をいただく。「僕なりのアレンジを加えたふるさとの味を感じ取っていただけたら嬉しく思います」。愛情あふれる料理を味わいながら、贅沢なひと時を感じてみてはいかがでしょうか。



山地店主と利き酒師の木島女将

【馳走とお酒 讃岐うどん 山地】
大阪府大阪市北区曾根崎新地1-2-3 サントビル1階 TEL06-6455-1881



オリーブが引き出す香川の新ブランド

オリーブを使用したブランド畜産物のオリーブ牛やオリーブ豚・オリーブ豚に新たに「オリーブ地鶏」が仲間入りしました。

オリーブ地鶏は「讃岐コーチン」「瀬戸赤どり」に出荷前の2週間、オリーブ飼料を与えた香川産の地鶏です。

抗酸化作用を持つポリフェノールやオレイン酸などを多く含むオリーブ飼料を与えることで、通常の地鶏に比べ、甘み成分の「グリシン」が1.6倍、うま味成分の「コハク酸」が1.2倍に増加。この成分の相乗効果により、豊かな味わいを感じることができます。

香川の新ブランド「オリーブ地鶏」をぜひ、味わってみてください。

【問い合わせ】香川県畜産課 TEL087-832-3427 [さぬきうまいもん](https://www.my-kagawa.jp/)

かがわ県産品カタログギフト 「香川べっぴんさん」誕生

香川県自慢の特産品を集めたカタログギフト「香川べっぴんさん」が3月に誕生しました。香川県とカタログギフト大手のリンベル株式会社が連携し、玉藻コース(税別3800円)・紫雲コース(同5800円)の2種類で販売を開始。各コースとも約60点の商品を掲載しています。

カタログ内には、讃岐うどんや旬のフルーツ、オリーブ牛、オリーブハマチ、銘菓などの食品、国の伝統的工芸品に指定されている香川漆器や丸亀うちわなどの工芸品、さらには栗林公園の入園・和船乗船や和三盆菓子作りなどの体験といった、香川が誇る商品が盛りだくさんです。

また、商品だけでなく、香川の風土や文化、ものづくりについての特集ページも掲載し、読み物としても香川の魅力を感じることができるカタログとなっています。お中元やお歳暮はもとより、各種祝いやイベントの記念品など、ぜひご活用ください。



【問い合わせ】
香川県産品振興課
TEL087-832-3386
[リンベル 香川べっぴんさん](http://www.ringbell.co.jp/kagawa/)
<http://www.ringbell.co.jp/kagawa/>

夏休みに家族で瀬戸大橋を満喫 瀬戸大橋開通30周年記念イベント

4月10日に開通30周年を迎えた瀬戸大橋。これを記念するイベントを、夏休み期間中にも開催します。瀬戸大橋記念公園では、毎週土曜日に「サンセットライブ」と称して、ダイヤモンド☆ユカイさんなど著名なアーティストのライブを開催するほか、飲食ブース「キッチンカー大集合」を実施します。また、瀬戸大橋記念館では、瀬戸大橋開通30周年記念事業香川県実行委員会公認アイテム「TOMIXマリンライナー」のジオラマを展示します。ご家族でも楽しめるイベントです。ぜひ、ご来場ください。

なお、イベントの詳細はホームページで随時掲載します。



【期 間】7月21日(土)~8月19日(日) [土日中心]
【場 所】瀬戸大橋記念公園、瀬戸大橋記念館
【入場料】無料

【問い合わせ】瀬戸大橋開通30周年記念事業 香川県実行委員会事務局(香川県交通政策課内) TEL 087-832-3131
[うどん県旅ネット 瀬戸大橋](https://www.my-kagawa.jp/feature/setoohashi/event)
<https://www.my-kagawa.jp/feature/setoohashi/event>

香川を新しいふるさとに 「香川県移住フェアin東京2018」開催

香川県への移住をお考えの方、移住に興味があるがどうすればいいのか分からない方に向けて、「香川県移住フェアin東京2018」を開催します。

先輩移住者の体験談や移住フェアに参加している市町の紹介など、移住に関する情報が盛りだくさんです。また、移住に関するお悩みなど個別に相談もできます。きっと、かがわ暮らしのヒントが見つかります。

なお、会場にはキッズスペースも設けていますので、ぜひ、ご家族でご参加ください。

【日時】7月15日(日)11時~16時
【会場】東京交通会館12階カトレアサロンA

【問い合わせ】
香川県地域活力推進課 TEL087-832-3125
[かがわ暮らし](https://www.kagawalife.jp/)
<https://www.kagawalife.jp/>



小豆島1周約82km サイクリングマップ作成

香川県内有数の観光地である小豆島を1周するサイクリングマップを作成しました。マップには、主要道路や各港を通過して島を1周するメインルートや、三都半島や二十四の瞳映画村を通るオプションルート、安全・快適に走行できるように、サイクルスタンドや空気入れ、休憩スペースなどを備えた「サイクルオアシス(休憩所)」35カ所を掲載しています。

その他、サイクリスト(自転車愛好者)が気軽に立ち寄ることができる島内の観光スポットやグルメ、おすすめ撮影スポットなど観光情報も多数紹介しています。

マップは日本語の他、英語、中国語、韓国語の4種類で、高松空港やJR高松駅、高松港などに配置し、香川県公式観光サイト「うどん県旅ネット」にも掲載しています。

自転車ルートを整備した小豆島で、ここでしか味わえない魅力を肌で感じてみませんか。

【問い合わせ】香川県観光振興課 TEL087-832-3361
[うどん県旅ネット パンフレット](https://www.my-kagawa.jp/pamphlet)
<https://www.my-kagawa.jp/pamphlet>

